

科目名	物理療法実技						年度	2025	
英語科目名	Physical therapy practical skill						学期	後期	
学科・学年	柔道整復科 2年次	必/選	必	時間数	30	単位数	1	種別※	実技
担当教員	星野虎之助、後藤晃弘		教員の実務経験	有	実務経験の職種	柔道整復師(接骨院にて勤務経験あり)			
【科目の目的】 柔道整復師として臨床現場での、物理療法の最低限の知識、基本技術を身に付け、臨床での患者への施術を具体的にイメージし、体感することにより、医療現場に対する好奇心を高め、明るい未来を創造する。									
【科目の概要】 部位別に具体的な外傷の修復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。									
【到達目標】 物理療法の理解や探求する力を身につけるために、各物理療法の用いた際の生体への反応の法則を理解することを到達目標とする。									
【授業の注意点】 学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	電気刺激療法について完全に理解している。	電気刺激療法について大体理解している。	電気刺激療法について部分的に理解している。	電気刺激療法についての理解がやや不足している。	電気刺激療法について理解していない。				
到達目標 B	温熱療法について完全に理解している。	温熱療法について大体理解している。	温熱療法について部分的に理解している。	温熱療法についての理解がやや不足している。	温熱療法について理解していない。				
到達目標 C	寒冷療法について完全に理解している。	寒冷療法について大体理解している。	寒冷療法について部分的に理解している。	寒冷療法についての理解がやや不足している。	寒冷療法について理解していない。				
到達目標 D	水治療法について完全に理解している。	水治療法について大体理解している。	水治療法について部分的に理解している。	水治療法についての理解がやや不足している。	水治療法について理解していない。				
到達目標 E	超音波療法について完全に理解している。	超音波療法について大体理解している。	超音波療法について部分的に理解している。	超音波療法についての理解がやや不足している。	超音波療法について理解していない。				
【教科書】 教科書（柔道整復理論編一般社団法人全国柔道整復学校協会 監修一）に準拠する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 試験と課題を総合的に評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		物理療法実技			年度	2025
英語表記		Physical therapy practical skill			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	マクロショックとマイクロショック	マクロショックとマイクロショックを理解する。	1 電流について	電流による電撃を理解する	3	
			2 マクロショック	マクロショックによる人体反応を理解する		
			3 マイクロショック	マイクロショックによる人体反応を理解する		
2	電気療法	電気療法の使用の仕方を習得する。	1 使用方法	電気療法機器の使用方法を理解する	3	
			2 頸部・腰部へ施術	頸部、腰部へ施術する		
			3 効果と禁忌	電気療法の効果を体感し、禁忌を理解する		
3	温熱療法	温熱療法の表面加熱と深部加熱の違いについて理解する。	1 温熱療法について	温熱療法の特徴を理解する	3	
			2 表面加熱の特徴	表面加熱の効果を理解する		
			3 深部加熱の特徴	深部加熱の効果を理解する		
4	温熱療法	温熱療法の生理学的作用を理解する。	1 生理学的作用	温熱療法の効果を生理学的に理解する	3	
			2 腰部、前腕へ施術	使用方法を理解し、腰部、前腕へ施術する		
			3 効果と禁忌	温熱療法の効果を体感し、禁忌を理解する		
5	ホットパック療法	ホットパック療法の利点と欠点、使用方法を理解する。	1 ホットパックの特徴	ホットパックの特徴を理解する	3	
			2 腰部、下肢へ施術	使用方法を理解し、腰部・下肢へ施術する		
			3 効果と禁忌	ホットパックの効果を体感し、禁忌を理解する		
6	パラフィン浴療法	パラフィン浴療法の利点と欠点、使用方法を理解する。	1 パラフィン浴の特徴	パラフィン浴の特徴を理解する	3	
			2 上肢へ施術	使用方法を理解し、前腕へ施術する		
			3 効果と禁忌	パラフィン浴の効果を体感し、禁忌を理解する		
7	超音波療法	超音波療法のBNR、ERA、キャビテーションを理解する。	1 超音波療法について	超音波療法の特徴を理解する	3	
			2 温熱作用について	超音波療法の温熱作用を理解する		
			3 音圧作用について	超音波療法の音圧作用を理解する		
8	振り返り	後期1回～7回の講義の振り返り。	1 使用方法	各種機器の使用方法を振り返る	3	
			2 効果、禁忌	各種療法の効果、禁忌を振り返る		
			3 具体的使用例	スポーツ現場での使用例を覚える		
9	超音波療法	超音波療法の生理学的作用を理解する。	1 急性期の効果	急性期の非温熱効果を理解する	3	
			2 慢性期の効果	慢性期の温熱効果を理解する		
			3 生理学的作用	超音波療法の効果を生理学的に理解する		
10	超音波療法	超音波療法のパルスや周波数の設定について習得する。	1 周波数による差	周波数の違いによる効果の差異を理解する	3	
			2 グローブワークによる差	グローブワークの違いによる効果の差異を理解する		
			3 上肢へ施術	使用方法を理解し、上肢へ施術する		
11	超音波療法	超音波療法の効果と禁忌、電気療法との併用について習得する。	1 ハイボルトについて	ハイボルト療法の特徴を理解する	3	
			2 立体動態波について	立体動態波療法の特徴を理解する		
			3 電気刺激療法との併用	電気刺激療法との併用の効果を理解する		
12	極超短波療法	極超短波療法の生理学的作用を理解する。	1 極超短波療法について	極超短波療法の特徴を理解する	3	
			2 極超短波療法機器	極超短波療法機器を実際に確認する		
			3 生理学的作用	極超短波療法の効果を生理学的に理解する		
13	極超短波療法	極超短波療法の原理について理解する。	1 極超短波について	極超短波の波長等の特徴を理解する	3	
			2 極超短波の使用例	電子レンジの仕組みを理解する		
			3 禁忌	禁忌について、体内、体外、衣服を理解する		
14	振り返り	後期9回～13回の講義の振り返り。	1 使用方法	各種機器の使用方法を振り返る	3	
			2 効果、禁忌	各種療法の効果、禁忌を振り返る		
			3 具体的使用例	臨床現場での使用例を覚える		
15	極超短波療法	極超短波療法の使用方法を習得する。	1 使用方法	極超短波機器の使用方法を理解する	3	
			2 腰部へ施術	使用方法を理解し、腰部へ施術する		
			3 効果と禁忌	極超短波の効果を体感し、禁忌を理解する		

評価方法：1. 小テスト、62. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等